

申し込み案内

広野町史

通史編

体裁

- A5判
- 布クロス・ヒールカバー
- 上製本・函入
- 原色図版
- 本文共総頁約130頁

価格

頒布価格 五、〇〇〇円

送料込 五、五〇〇円

申し込み

- 1、申込書ハガキでお申し込みください。
- 2、現金封筒にてお申し込みください。
- 3、小部数限定出版のため、刊行部数に達し次第締め切らせていただきます。

◇お早めにお申し込みください。

配本

平成十八年四月配本予定

郵便はがき

9790402

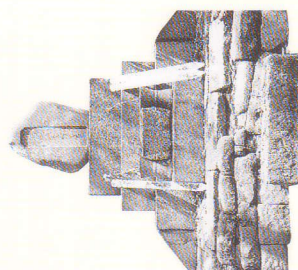
50円切手を
お貼り下さい

福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替三五

広野町教育委員会

広野町史編せん室行

第一章 磐城平藩の成立と鳥居氏の藩政



（いわき市・長瀬寺）
鳥居元忠墓

鳥居家は徳川家殿臣の家臣であった。関ヶ戦後の論功行賞によって、奥羽諸大名に対する備えとして陸奥に配置された譜代大名は、鳥居忠政ただ一人であった。その軍事的役割は大きいものがあつた。

第三節 磐城平城の築城

慶長七年（一六〇二）十一月、鳥居忠政は旧岩城氏の居城であつた大館城に入つた。その際、新城を築くことを命ぜられ、將軍秀忠より永樂錢三〇〇貫を拝借したという。大館城は狭小の地に所在し、堅固さを欠くとして、他の候補地を選び、新たに築城を企てたのである。最初は磐前郡住吉の地に築こうとしたが、地形上問題があつてこの地をあきらめて、飯野八幡宮が鎮座していた物見ヶ岡（いわき市平字旧城跡）を新城の地と定めたという。

飯野八幡宮は、文治二年（一一八六）京都石清水八幡宮より分靈を勧請された古社で、旧領主岩城氏からは六五〇

の命を受け、二、〇〇〇の兵を率いて籠城した。しかし、石田三成の総攻撃を受けて奮戦の末、八月一日壮絶な最後を遂げた。

慶長十六年にいたり、將軍秀忠は元忠の菩提を弔うために一寺を建立させた。寺は元忠の法号に因んで長瀬寺と名づけられ、印地一〇〇石が寄進された（図2）。

元忠の二男、忠政は矢作城にあつて留守をまもり、上杉景勝の動向を牽制し江川城の守備にあたつていた。父元忠が伏見城において討死のあとその封をついだ。元忠の功により六万石が増され、旧領を改めて一〇万石が与えられ、磐城平に入封した。

330

広野町史

通史編

旧石器時代から現在までの広野の足跡をたずねる



昭和39年
開拓地の風力発電

●お問い合わせは●

広野町教育委員会

〒九七九-0402

福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替三五

☎（〇二四〇）二七一・四一六六

広野町史編さんの総集編とも言うべき通史編を刊行いたしました。

阿武隈高地東縁に位置し、低丘陵の森と沖積地の田畑が広がるのが私達の町、広野です。そしてこの緑豊かな大地で、一万年以上も前から私たちの祖先は生活を続けていました。自然の恵みの中の縄文時代、農業開始により生産と富の蓄積を学んだ弥生時代、国家統一にゆれた古代、岩城北辺の守りに生きた中世、磐城平藩領、幕府領、あるいは新発田藩（新潟県）や多古藩（千葉県）領とはんろうされた近世、近代国家となつて戦争に明け暮れた明治後半から昭和二十年、そして戦後六十年間の平和を守り抜いた現在があります。

過去の広野の先人たちの生き方から、無限の教えを学び得る人には、未来への道を切り開く確かな手ごたえを感じることが出来ると信じています。

「愛読ねがいます。」

広野町史購入申込書